



2002年03月06日

フォルクスワーゲン フェートンW12 ジュネーブショー デビュー

フォルクスワーゲンAG(本社:ドイツ連邦共和国 ニーダーザクセン州 ウォルフスブルグ市)は、3月5日(火)からスイス ジュネーブ市内で開催されている「第72回 ジュネーブ モーターショー」において、フォルクスワーゲン初の大型サルーンである「フェートン」を発表しました。

「フェートン」は、全長5,055mm、全幅1,903mm、全高1,450mm、ホイールベース2,881mmという、フォルクスワーゲンとしては過去最大のボディサイズを誇ります。低く流れるようなボディシェイプは、ダイナミックでスポーティーな雰囲気を伝え、シャープに切れ上がったガス ディスチャージ ヘッドライトを装備したフロントマスクや、ブレーンでソリッド感溢れるリア エンドは、明らかに今までの大型車に見られるデザインとは一線を画す、クールなイメージを感じさせます。すなわち「フェートン」は、「運転する喜び」を決して忘れない「オーナー ドライバー」を魅了し、厳選された最高の皮革素材やウッドパネルは、ジャーマンクラフトワークによって安らぎと落ち着きを与えてくれるインテリアを醸し出すなど、ドライバー、パッセンジャー双方のハートを強く引き付けた、新しい時代にふさわしい大型サルーンと言えます。

4MOTIONが標準装備となるW12とV10 TDI、そしてFFモデルのV6「フェートン」には、フォルクスワーゲンが誇る最新テクノロジーが惜しみなく注ぎ込まれています。「フェートン」に搭載されるW12エンジンは、昨年の東京モーターショーに出品された国際スピードレコードカー、フォルクスワーゲン W12に搭載された5,998cc、600psを発揮するW型12気筒エンジンをベースに、出力を420psに抑えたものです。この新発想からなるW型エンジンの構造は、従来のV型エンジンとは異なります。左右72°のバンク角で組み合わされたシリンダーブロックは、その中でさらに狭角15°のVバンクを持つ構造となっています。すなわち、左右の片バンクに狭角15°のVブロックを持つ構造から、「V」+「V」、すなわち「W型エンジン」と呼ばれるようになりました。この結果、従来の一般的な90°バンクのV型エンジンに比べ、非常に軽量でコンパクトなエンジンとなっています。因みに、このW型エンジンの片バンクに使用されている狭角15°のV型ユニットは、日本で販売されているポラーV6 4MOTION、ポラーV5などに採用され、好評を得ているユニットです。

また、FF専用となるV6エンジンは、3.2リッターの排気量から最大トルク315Nm、最大出力241bhpを発揮し、標準装備の6速マニュアルトランスミッションと、オプションの5速ティプトロニックのいずれかを選択する事ができます。一方、ヨーロッパでは圧倒的な支持を得ているディーゼルエンジンについても、フォルクスワーゲンはフラッグシップにふさわしいパワーとトルクを兼ね備えたユニットを用意しています。V10 TDIに搭載予定のディーゼルエンジンは、世界最強の750Nmという強大なトルクを発生し、ターボと高圧燃料噴射装置の採用によってディーゼル特有のトルクを一層強化して、313bhpのハイパワーと共に、今までのディーゼル乗用車の常識を覆すスポーティーなエンジンとなっています。また、このV10 TDIは走りもスポーティーに楽しめるよう、マニュアルシフトのように操作できる6速ティプトロニックが標準装着される予定です。

さらに「フェートン」には、極めて風を感じさせない斬新なアイディアによる4ゾーンクライマトロニック エアコンディショナーや、ダイナミックな走りを保証する4輪エアサスペンション、2色発光LEDによるリアコンビネーションランプ、可変プレッシャーワイパーなど、フラッグシップモデルにふさわしい革新的なテクノロジーを採用しています。

なお、「フェートン」の生産は、ドイツ連邦共和国ドレスデン市にある「フェートン」専用のグレーゼルネ マヌファクチュア(ガラスの工場)で生産されます。なお、日本への導入は2003年を予定しており、仕様、価格などに関しては現在未定です。

「フェートン」に関するVGJオフィシャルフォトは、VGJインターネットホームページ「VW Interactive」内にあるプレスクラブにアップされています。写真の閲覧および、ダウンロードしてご利用頂けますので、是非ご覧ください。